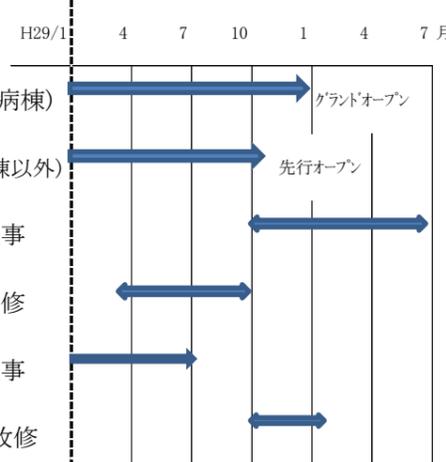


平成29年度 事業計画

区分	法人本部							
<p>基本方針</p>	<p>1.アクションプラン21:新病院建設プロジェクト</p> <p>「未来へつづく病院づくり」(日本屈指の医療技術と高度先進医療を、心の通い合うサービスで提供し続けるために)</p> <p>→H30.1月グランドオープン(予定)に向けた進捗管理</p>	<p>2. 武蔵小杉キャンパス再開発プロジェクト</p> <p>「都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想」に基づき『医療と文教の核』としての役割を担う新病院の建設計画</p>	<p>3. 法人全体の財務収支改善</p> <p>4. 物流業務可視化による医薬品、医療材料費の圧縮</p> <p>5. 新経営体制における中長期経営計画の策定</p> <p>⇒外部コンサルに頼らない「オールNMS」体制の発揮</p>	<p>6. 看護師採用・育成・教育の推進と働き方改革</p> <p>7. ホームページ刷新等ICT推進</p>				
<p>事業計画</p>	<p>1. AP21関連工事の着実な進行</p>  <p>➢財務:リース導入等による借入金残高の増加抑制</p> <p>2. 武蔵小杉地区再開発</p> <p>①開発スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="267 1302 816 1575"> <tr> <td>A街区／小学校</td> <td>H29/4月着工 H31/4月開校</td> </tr> <tr> <td>B街区／新病院</td> <td>H31年夏 着工 H34年春 開院</td> </tr> </table> <p>➢学校敷地:H29/4月～賃貸契約締結済</p> <p>➢提供公園:小学校開校前に整備し川崎市へ引渡し</p> <p>➢周辺道路:小学校周辺は開校までに整備(B, C街区周辺は各段階ごとの3段階整備)</p>	A街区／小学校	H29/4月着工 H31/4月開校	B街区／新病院	H31年夏 着工 H34年春 開院	<p>②新病院建設スケジュール</p>  <p>➢理事長, 学長, 院長, 法人本部(企画部・管財部・財務部)を構成メンバーとする定例ミーティング開催中</p> <p>3. 収支改善施策</p> <p>①医療収入の増加</p> <p>→「H29年度 事業活動収支差額」目標達成に向けた予算策定・執行管理の強化</p> <p>・各所属の事業計画・進捗状況フォロー</p> <p>②医療経費率の低減</p> <p>→後記「4.」参照</p> <p>③補助金収入の確保</p> <p>→H29年度の補助金予算に沿った補助金申請誘導</p> <p>④寄付金収入の増加</p> <p>→「140周年記念募金」「千駄木地区再開発募金」展開中</p> <p>・教職員, 同窓生, 取引先企業等からの幅広い厚意を得るためアプローチ等施策を強化・実施</p> <p>➢H29年度予算を上回る収支差額計上を目指す</p>	<p>4. 物流可視化プロジェクト</p> <p>・目的:① 医療材料費適正化(無駄の排除, 請求もれ防止等)</p> <p>② 4病院における医材購入統一(購入方法, 価格等)</p> <p>③ スケールメリットによる医材・薬剤購入価格低減</p> <p>・施策:① 「物流検討委員会」開催と物流業務の可視化</p> <p>② 医材マスタ整備、購入薬剤数(種類・品目)の削減</p> <p>③ メーカー・ディーラー向け価格統一交渉の実施</p> <p>➢ICT推進センター, 管財部が事務局となり、物流可視化で成果をあげた附属病院のノウハウ・手法を他3病院へ伝播</p> <p>5. 中長期経営計画の策定・検討</p> <p>・目的: 収益力の強化と財務体質の改善</p> <p>・時期: H29年度内の計画策定完成を目指す</p> <p>・施策:① 経営方針・計画骨子等フレームワーク策定(～4月)</p> <p>② 所属ごと「基本構想(中長期計画)」検討・策定(～7月)</p> <p>③ 所属ごとに「基本構想」の実現施策の検討(～10月)</p> <p>④ 所属ごと「中長期事業活動収支計画」策定(～12月)</p> <p>⑤ 法人全体の「事業活動収支計画」を策定(～3月)</p> <p>➢財務部が事務局となり、各所属, 法人本部へ展開</p> <p>➢理事長をトップとする「中長期経営計画策定委員会」を立上げ 随時、理事会への報告・承認を得つつ推進していく</p>	<p>6. (1)看護師募集</p> <p>→人事課, 病院採用担当により説明会開催, 訪問等実施</p> <p>→看護職員研修8コースの企画・実施</p> <p>(2)働き方改革</p> <p>→「長時間労働の是正、生産性の向上」に繋げる体制整備</p> <p>→ワークライフバランスに配慮し、女性活躍の場や各種の制度充実を図り、労働の質向上に努める</p> <p>7. ホームページ刷新</p> <p>・委託業者見直しによりH29/4月～大幅に刷新予定</p> <p>➢ICT推進センター, 総務部が事務局となり運営会社との調整を短期集中的に実施中</p> <p>➢各所属においても掲載ボリューム, ページ数等圧縮を推進</p>
A街区／小学校	H29/4月着工 H31/4月開校							
B街区／新病院	H31年夏 着工 H34年春 開院							

平成29年度 事業計画

区分	日本医科大学	日本獣医生命科学大学
基本理念	<p>●学 是： 克己殉公</p> <p>●教育理念： 愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成</p> <p>○「歴史ある私立医科大学」の特長を基盤に、最新の医学を教育・研究し、広く国際的な視野に立った見識と豊かな人間性を備えた医師、医学研究者の養成に努め、人々の健康の維持・増進、社会に貢献する</p>	<p>●学 是： 敬讓相和</p> <p>●教育理念： 愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成</p> <p>○「愛と科学に基づく、大学改革実現に向けた第一歩」～多様性を理解し、個を磨く大学へ～</p> <p>…教育理念に掲げる「愛と科学」に基づき「多様性を理解し、個を磨く大学」への改革実現に向けたプロジェクトを展開</p>
事業計画	<p>➤機動的・戦略的な大学運営の推進</p> <p>➤ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく、体系的で充実した教育課程の編成・実施</p> <p>➤アドミッションポリシーを踏まえ、明確な目的意識を持つ意欲的で優れた人材の受入れ</p> <p>➤医学の発展に貢献する卓越した研究の推進と研究支援体制の充実</p> <p>➤社会の変化に対応した教育研究を展開するための教育研究組織や事務組織の効果的な再編・整備</p> <p>➤学生生活全般に亘る、きめ細かな支援</p> <p>➤国際的な交流、連携、協力活動の推進</p> <p>➤他大学や地域社会との連携強化と、教育研究成果の社会への還元</p> <p>➤環境と安全に配慮したキャンパスの整備</p> <p>1. 重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な入学者選抜試験の実施 ・カリキュラムの抜本的改定 ・教育研究費配分の抜本的改善 ・私立大学研究ブランディング事業申請 ・IR機能の充実と拡充 ・大学間連携の充実 ・ICT化推進による教育・研究環境整備 ・キャリア支援体制構築 <p>2. 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育力向上のための教職員参加可能なFD開催 ・大学院教育の実質化推進 ・e-learningシステムの利用促進(学部・大学院) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン <p>3. 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業への申請(採択件数向上) ・研究の継続と活性化 ・競争的研究資金の獲得による研究推進 ・コンプライアンス遵守のための取組 ・寄附講座等外部資金による研究推進 <p>4. 管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内シミュレーターの一元管理 ・全職員を対象としたSDの計画的実施 <p>5. 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動及び運動施設確保の支援 ・授業料減免及び奨学金貸与などの経済的支援 ・医師国家試験合格率向上の支援 ・RA, TA採用による経済的支援 ・学習方法、生活指導などの支援 ※RA:実験・実習等の教育補助、TA:各種実験補助・研究設備運転補助 <p>6. 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の海外研修助成事業 ・外国人留学生の受入れ ・海外BSLの支援 ・海外提携大学等との交流 <p>7. 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携による研修・見学の実施 ・地域社会連携の推進 ・大学間連携の推進 ・新丸子キャンパス運動場の開放 ・産学連携の推進 	<p>1. 重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学改革マスタープラン「中長期計画」の策定 ・学生ファーストな体制整備 ・教育の質保証・向上と特色ある教育の推進 ・教員力、職員力の向上 ・戦略的、独創的研究、産学官連携共同研究の推進 <p>2. 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育の強化 ・弾力的な授業期間設定 ・特色ある教育、資格取得支援への取組 ・定員適正化、定員確保への取組 ・学修支援システムの活用 ・獣医学教育改革の推進 ・Active Learningの推進 <p>3. 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的研究体制の検討 ・補助金を含む外部資金獲得に向けた戦略的取組 ・生命科学総合研究センターの具体的取組 ・特色ある研究、若手研究者への研究支援基盤の形成 <p>4. 管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的な中長期計画策定に向けた取組 ・広報体制の強化 ・大学入学者選抜改革 ・ハラスメント防止、窓口体制の強化 ・危機管理体制と危機対応力の向上 ・施設貸出料金見直し、要綱等規定制定 ・自己点検、評価に関する取組の強化 <p>5. 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談機能の見直し、強化 ・部活動、学外活動に関する支援 ・配慮を要する学生への支援体制検討 ・満足度調査の実施、学生要望を汲み上げるシステムの整備 ・キャリア支援活動の強化 <p>6. 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本獣医生命科学大学国際化ビジョン」検証 ・海外提携大学との単位互換制度、インターンシップ確立の検討 <p>7. 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習としての公開講座等実施 ・東京商工会議所入会 ・野生動物教育研究機構の体制強化、研究活動等の公表 ・産官学合同セミナー等の開催 ・国内協定機関との協力体制強化

平成29年度 事業計画

区分	付 属 病 院	武 蔵 小 杉 病 院	多 摩 永 山 病 院	千 葉 北 総 病 院		
基本方針	1. 経営健全化の実現 2. 「つくすこころ」をもち患者に選ばれる質の高い医療サービスを提供する 3. 患者及び地域医療機関から信頼される病院づくり	1. 患者満足度向上(アメニティ, 接遇, 待ち時間等) 2. 各部門の業務効率化、安全な医療の提供 3. 施設認定・個人資格取得、チーム医療推進等 4. ①医療分析による更なる収支改善 ②看護師確保による高ベッド稼働率の維持 ③安定した黒字体質の確保	1. 南多摩地域の基幹病院として地域医療に貢献 2. 病病・病診連携を推進し、「多摩地域の患者は多摩地域で治す」を実現すべく、質の高い医療を提供する	1. 各診療科・看護部・その他部署が診療において組織横断的協力体制を築く 2. 「地域中核病院」機能を基盤に、救命救急・急性期脳卒中・高度急性期医療を展開する 3. 「印旛医療圏がん診療連携拠点病院」「(外国人患者受入れ環境整備事業)外国人患者受入れ拠点病院」として診療実績を蓄積		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ➢AP21/Ⅱ期完成による医療の体制整備と機能・収益強化 ➢医療行政を見据えた医療の方向性検討 ➢高度急性期病院としての機能維持 ➢施設基準取得等を通じた医療収入強化 ➢医療連携の強化(同窓, 地域医療機関, 新規連携) ➢業務見直しと効率化による人員配置見直し ➢AP21/Ⅱ期完成に伴う収益性を考慮した病床配置の検討 ➢DPC制度に関する勉強会開催等教育の継続 ➢保険診療に関する知識向上のための研修会開催等の教育 ➢特定機能病院の承認要件変更に伴う対応 	<ul style="list-style-type: none"> ➢特徴をもった医療の展開と周辺医療機関を凌駕する診療体制の構築(午後診: 専門・特殊外来の充実等) ➢手術室の効率的利用 ➢初診患者(紹介含む)の獲得による入院・外来診療の増加 ➢看護師及び助産師の定数確保 ➢新病院設計に向けた準備 ➢DPCの有効活用 ➢医療外収入施策の検討(文書料金値上げ等) ➢診療科・PSCによる連携医療機関訪問 ➢災害時に備え自家発電機/バックアップ機の設置 ➢神奈川DMAT、川崎DMATとしての活動継続 	<ul style="list-style-type: none"> ➢多摩市とのネットワーク・連携強化 ➢40周年記念行事(記念誌配布) ➢業務見直しを通じた時間外勤務削減 ➢医療安全・感染対策の強化 ➢レセプト点検プログラム導入 ➢医師事務作業補助体制加算ランクアップ(75対1→50対1へ) ➢DMAT隊員養成・研修事業への参加 ➢近隣医療機関への災害時研修実施 ➢患者支援センターの組織整備 ➢吐血救急搬送患者の受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ➢救急収容患者の増加 ➢内科が実施する高単価外科的治療の推進 ➢ドクターヘリを最大限活用した高度急性期医療の展開 ➢「がん診療連携拠点病院」指定に伴う新患者の確保 ➢「外国人患者受入れ拠点病院」選定に伴う新患者の確保 ➢診療報酬請求の徹底による診療報酬の増加(加算の算定) ➢外来患者の確保 ➢集中治療室の施設整備 →「救命救急入院料」と「特定集中入院料」を明確に区分 ➢医師事務作業補助体制加算ランクアップ(30対1→25対1へ) ➢がん相談支援センターの組織整備 		
主要取組事項	患者数確保	入院	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ期新病院開院に伴う病床利用率向上(【目標】在院88%) ・新病院室料差額設定(H30/1月～、同時期VIP病棟オープン) ・平均入院日数短縮, 単価向上(【目標】入院:12.0日、単価:83,184円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床利用率の確保(【目標】88.4%) ・看護師安定確保による最大限の稼働ベッド数維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター入室基準運用の継続 ・病床利用率の確保(日曜日退院, レスパイト入院の促進等) ・看護部主導によるベッドコントロール強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入院患者の増加 ・病床利用率の向上(【目標】病床利用率:80～83%以上) ・各診療科の連携強化によるがん患者の受入れ拡充
		外来	<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準化検査体制加算の維持, 継続 ・栄養指導件数の増加(【目標】月100件増加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者, 救急患者の重点的な受入れ ・医療機関との相互連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導料算定体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携機能充実による初診患者の増加 ・外国人患者の受入れ強化(医療連携, 対応窓口の機能充実) ・来院アクセスへの配慮(循環バス運行)
	救急患者受入	<ul style="list-style-type: none"> ・断らない救急医療の徹底(看護必要度の底上げ) 【目標】救急車応需率:85%、救急患者応需率:90%以上 ・救急用ベッド確保(体制検討委員会で体制整備検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車の重点的な受入れ、応需率拡大 ・救急応需状況の診療科別, 医師個人別データ集積 【目標】応需率:時間内95%以上、時間外70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間, 休日の救急応需率向上(【目標】応需率90%) ・救急謝絶事由の把握による事後検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次, 三次救急患者受入れ強化 ・ドクターヘリ, ラピットカーの効率的運用(夜間運行の実現) 	
	医療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介元, 紹介先の医療機関との連携強化 【目標】紹介率:80%、逆紹介率:60% 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者数, 逆紹介患者数の向上 【目標】紹介率:63%以上、逆紹介率:30%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新患者の増加(紹介率, 逆紹介率の向上) ・南多摩医療圏の医療機関, 市民への広報活動強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関訪問、講演会企画・特色領域の宣伝活動 ・医師支援室の強化(【目標】紹介率・逆紹介率:50%以上) 	
	手術件数	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室(本館11室, 東館10室)の中央化による手術件数向上 【目標】手術件数:年間11,000件 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間の学会出張等の参加抑制による手術枠確保 ・手術枠再配分によるOPE件数向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室7室の効率的運用による手術件数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術件数増大 	
	外来化学療法	<ul style="list-style-type: none"> ・血液浄化療法室の拡充(【目標】日中平均稼働率:90%) ・内視鏡センターオープンによる検査件数増 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来患者に対する検査項目の見直しによる増収 ・外来化学療法室の利用件数(【目標】月350件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来化学療法ベッド数8台の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア診療実績の向上 ・外来化学療法の強化 ・単純CT撮影開始時間の繰上げによる診断の効率化 	
	医療費削減	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の仕入価格交渉・採用品目削減、後発医薬品導入 ・職員雇用形態切替え、業務委託契約見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療材料の共同購入化、後発医薬品切替 ・職員宿舍解約の検討、洗濯・リネン業務の委託業者交渉 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品費, 材料費の削減 ・看護師寮の運用見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療材料, 医薬品費の削減 ・保守費, 清掃業務委託費など業務委託費の見直し 	
	数 在管院日	<ul style="list-style-type: none"> ・後方連携病院の確保(適用外患者のスムーズな転院) ・退院支援加算Ⅰの取得(MSW, 看護師の配置) 	<ul style="list-style-type: none"> ・PSCの強化による病床利用率の向上、在宅復帰率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院調整部門の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援業務に専従する職員の病棟配置(2病棟に1名以上) ・医療機関間の連携推進 	

平成29年度 事業計画

区分	健診医療センター	呼吸ケアクリニック	成田国際空港クリニック	腎クリニック	ワクチン療法研究施設
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ○画像検査センターとして、臨床・研究に寄与し、特性を生かして健康診断等の予防医療を充実 ○総合健診センターとしての発展 	<ul style="list-style-type: none"> ○収支差額100百万円の安定確保 ○人材・設備・研究環境を計画的に整え、クリニック運営の安定性を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ○安定的な収入基盤の構築 ○健診者の増加を通じ一般診療と健診センター機能を切り離して二分化し、効率的な体制を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ○付属病院, 他医療機関からの紹介患者獲得 ○保存期から外来患者としての受入れを行い透析導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○免疫療法の研究とSSM(丸山ワクチン)有償治験の基幹施設として業務を担う
事業計画（主要な取組事項のみ表示）	<ul style="list-style-type: none"> ➢検査数の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化PETカメラの新機種更新により検査処理(実施数)能力向上 【目標】年間検査数:2割増加 ➢PET検査以外の検査項目 <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査, 内視鏡検査等の増加、健診血液項目の追加 ➢未収金対策 <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な支払督促の実施 ・前払い制度導入などを健診紹介契約業者に徹底 ➢社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・PET検査啓蒙講演など市民社会講座へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ➢診療体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医として1名の医師を増員 ➢研究実施環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・備品, 人材確保等を通じた医師のモチベーション向上 ➢初診患者の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・6ヶ月ごとの定期受診勧奨 ➢未収金対策 <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な督促の実施 ➢保険請求査定への対処 <ul style="list-style-type: none"> ・査定状況を確認し、勤務者全員に周知・徹底、査定率向上を図る 【目標】査定率:0.5%以下 ➢医療体制・連携 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の役割分担検討 ・付属四病院間との連携強化による紹介患者数の増加 ➢管理運営・社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・クリニック勤務者の安定確保 ・フレキシブルな勤務形態へ移行 ・呼吸器疾患に関する啓蒙活動 (NPO発行情報誌, メディア等) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢外来診療以外への取組み <ul style="list-style-type: none"> ・健診, 人間ドック受入れ強化 【目標】健診:2,500件 人間ドック:180件 ・内視鏡検査数の増加【+50件】 ➢慢性疾患患者の取込み <ul style="list-style-type: none"> ・空港従業員への周知 ・健診, ドック受診者へのフォロー ➢未収金対策 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間受診者からの預り金徴収 ➢新たな収入源の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・眼科診療コンタクトレンズ外来の実施を周知 ➢医療体制・連携 <ul style="list-style-type: none"> ・成田国際空港株との協力 ・付属病院への医療連携強化 ➢管理運営・社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・人的配置の効率化 ・航空機事故対応 ・災害訓練等の空港スタッフ教育 	<ul style="list-style-type: none"> ➢透析患者の獲得 <ul style="list-style-type: none"> →他の医療機関からの患者受入れを積極的に行い、1日あたり患者数を(現在)30人⇒40人へ増やす ・腹膜透析との併用患者受入れ ・潰瘍性大腸炎等のリンパ球除去療法患者受入れ ➢未収金対策 <ul style="list-style-type: none"> ・後日清算, 振込入金を避け当日窓口清算 ➢医療連携 <ul style="list-style-type: none"> ・付属病院, 他医療機関に対しても検査・リハビリ等で患者を紹介 ・所長の外来診療の他、診療情報提供書の発行等で連携 ➢社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・東京都医療機関情報システム「ひまわり」へ医療機能情報登録 	<ul style="list-style-type: none"> ➢SSMを用いた免疫療法による癌治療の発展 <ul style="list-style-type: none"> 【目標】新規患者:2,000名 ➢他診療施設, 研究機関との連携 ➢免疫療法としてのSSM有用性の理解促進 ➢管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・カルテ電子化による管理効率化 ➢社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・免疫療法の理解, 普及の促進とがん治療への貢献

平成29年度 事業計画

区分	看護専門学校	先端医学研究所	国際交流センター	知的財産推進センター	ICT推進センター	研究統括センター
基本方針	○豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力, 判断力, 責任ある行動がとれる看護師を育成する	○先端医学研究推進による医学的発展への寄与、若手研究者育成 ○開かれたラボとして広域な医学研究と臨床応用の研究開発	○様々なレベルでの国際交流窓口として貢献 ○海外留学の活性化・支援、外国人留学生の支援・手続き整備	○研究成果を速やかに社会へ還元するため研究支援, 知的財産権の創出支援を行う	○全体最適化と情報ガバナンスの強化を目的に、情報化の方針や戦略を企画・立案、ICT推進委員会が策定した企画、戦略を実行する	○大学研究活動方針の企画・立案 ○法人内の研究実施体制構築 ○その他の研究活動支援
事業計画（主要な取組事項のみ表示）	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 質の高い教育の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に授業研究を取り入れ、教育内容, 教育方法を改善 ・点検・評価結果と学生意見を踏まえた講義, 臨地実習改善 ・教科外活動の充実 ➢ 教育能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の促進 ・研修・学会等への参加支援 ・研修会・学会の情報共有 ➢ 看護師国家試験対策 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の特徴を活かした教育, 指導、主体性ある学生の育成 ➢ 優秀な学生の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、進路相談会、HP等 ➢ 学生支援 <ul style="list-style-type: none"> ・付属四病院への就職、日本医科大学看護学生であることの意識付け ➢ 社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動参加支援 ・学校施設の開放 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 武蔵小杉病院移転に伴う将来構想 <ul style="list-style-type: none"> ・移転場所の確定 ・施設建築費等の移転予算化 ➢ ゲノム医学部門 <ul style="list-style-type: none"> → 研究・教育等開始のための人員確保検討 ➢ 細胞生物学部門 <ul style="list-style-type: none"> → 臨床応用できる研究を目指した部門整備 ➢ 病態解析部門 <ul style="list-style-type: none"> → 研究体制(管理・運営)の強化を図るための人員確保検討 ➢ 共同利用研究施設(動物実験室, RI実験室)等の管理運営・整備 ➢ ゲノム医学部門稼働に伴う研究室等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 外国人留学生受入れ事業 <ul style="list-style-type: none"> ・主に国際交流会館関係の対応 ・受入れ部署への教育経費支給 ➢ 外国大学との学術交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・協定校からの訪問、協定校への訪問等への対応 ・協定締結 ➢ 医学部学生の短期留学事業 <ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生国際交流助成金支給 ・医学部海外留学奨学金貸与 ➢ 外国人留学者研究会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・研究会, 懇親会の運営 ➢ 外国人留学者への奨学金支給 ➢ 国際交流センターHP充実 <ul style="list-style-type: none"> → ホームページの更新・変更等により学内外に分かりやすく 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究統括センターへの利益相反マネジメント委員会事務局の業務移行 ➢ 知的財産に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動 ・評価、維持活動 ・研究成果実用化活動 ➢ 産学官連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・2大学研究支援部署との連携 ・他研究機関との連携 ➢ 管理運営・社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアルの作成 ・知財に関する業務報告書の作成 ・文京区との連携 ・学外からの技術相談受付 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ LMS(学修支援システム)及びe-Learningなど、ICT活用による教育環境の充実を狙いとした次期学術ネットワーク構築・運用開始 ➢ 2大学で統一した学事, 学修支援システムのデータを活用しIR分析を施行 ➢ 4病院における医療情報システムの共通化に向けた方向性及び具体的手順の検討と施行 ➢ 仮想化技術を採用したサーバー集約など、医療情報のICTコスト最適化 ➢ 管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT推進委員会【年6回】 ・ICT予算の計画・実行、検証 ・障害時対策マニュアル整備 ➢ 体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ・総務部広報課と連携したホームページ運用体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究活動充実と3部門業務確立 <ul style="list-style-type: none"> ・研究管理, 臨床研究支援, 企画マネジメント部門の連携 ・部門責任者会議開催, 情報共有 ➢ 大学間連携の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム開催, 共同研究実施 ➢ 臨床研修講習会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会関係講習会(年2回) ➢ 利益相反業務の移管 <ul style="list-style-type: none"> ・知財センターからの受入れ ➢ 管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・3部門のつながり重視(事務担当者会議) ・業務マニュアル作成 ・倫理教育の検討 ・大学研究ブランディング事業申請に向けた取組 → 大学院委員会との連携 ・大学間連携の充実 <ul style="list-style-type: none"> → 客員教授採用, 特別講義 ・研究統括センター運営委員会 ・法人委員会及び大学委員会の在り方検討 ・研究費獲得推進, 執行状況管理